

## 2020年度立教セカンドステージ大学入学予定の皆さまへ

世界中で、また、日本国内でも、新型コロナウイルスの感染が急速に広がるのを目の当たりにして、皆さまにおかれましては、不安な毎日を過ごされておられることと存じます。

本来であれば、皆さまを春爛漫のキャンパスにお迎えし、赤れんがのチャペルにおいて、「学びの情熱」に燃えた皆さまのご入学をお祝いするとともに、皆さまを心から歓迎する式辞を述べさせていただくはずでした。しかし、新型コロナウイルスの蔓延という社会的危機のなかで、それもかなわぬ事態になってしまい、きわめて残念です。立教セカンドステージ大学での新たな学びとキャンパスライフへの期待に胸を膨らませておられた皆さまの落胆は、その大きさをお察ししても余りあるものと、心を痛めております。

立教セカンドステージ大学としても、シニア世代を中心とする受講生の健康と安全を最優先に、皆さまのご期待に可能な限りお応えするべく、対策の検討を続けております。皆さまもすでにご存じのように、今回の新型コロナウイルスは、感染力も強く、とりわけシニア世代にとっては、ひとたび罹患すると重症化率がきわめて高いことが分かっています。加えて、とりわけ首都東京をはじめ大都市圏の医療態勢は、崩壊寸前の状況にあると言われております。私たちが罹患すると、みずからの命を危険にさらすとともに、ただでさえ逼迫している医療機関の負担を大きくするだけでなく、大切な家族や友人、そして社会生活において接触するすべてのひとに感染させるリスクが生じます。積極的にみずからの身を守ることによって、私たち自身が社会全体を守ることにもなります。その意味で、罹患しないように万全を期すことこそが、今、私たちにできる最大の社会貢献だということを、本学のスタッフ一同も改めて自覚させられている毎日です。

このような現状では、受講生の皆さまが大学の教室に集まって長時間の講義を聴講し、また、小教室でのゼミで議論を交わすことはもちろん、公共交通機関を利用して大学に登校すること自体も、少なからぬ感染リスクを伴います。したがって、ウイルスの猛威が拡大する一方で、その収束を見通せない現段階では、当面、開講を控えて、皆さまが不安なくキャンパスにおいでいただける時を待つほかありません。これも皆さまの安全と安心を第一に考えての、ひいては感染拡大を社会的に防止するための苦渋の選択として、ご理解とご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

今年度に入學予定の皆さまをキャンパスにお迎えして、直接お祝いの言葉を申しあげられる時が一日も早く訪れることを、皆さまとともに待ち望んでおります。立教セカンドステージ大学に学ぶ日をお待ちいただくかどうかは、皆さまご自身のご判断に委ねますが、いずれであっても、皆さまもどうか十分に用心されて、お元気でこの危機を乗り切っていただきたく、心より願っております。

2020年4月3日

立教セカンドステージ大学  
学長 郭 洋春